

2. 冬期道路管理を効率的に実施する行政システムに関する事項

1) 評価システムによる事業執行

雪寒事業の特性を踏まえた費用便益分析等による事業評価の推進

事業についての適正な評価を行うとともに、雪寒事業の効果の程度を国民に対して分かり易く説明するため、雪寒事業の特殊性を踏まえた費用便益分析の検討を進め、適切な事業評価を進めるべきである。

アウトカム指標による評価システムの導入

雪寒事業の効果や進捗状況を明らかにするため、雪寒事業の事業目的に即したアウトカム指標を設定・評価すべきである。そのためには、冬期の交通状況や気象状況に関する基礎データの収集・蓄積を推進すべきである。

2) サービスレベルの明確化

地域特性を踏まえた冬期道路管理水準の明確化

降雪の多少に係わらず効率的な冬期道路管理を図るため、雪国の地域特性や路線の重要性に応じたサービスレベルを設定するとともに、わかりやすい基準を検討すべきである。

また、地域住民との適切な役割分担を図るためには、行政の責任範囲を明確化することが必要不可欠であり、サービスレベルの設定とともに、冬期道路管理水準の明確化を図っていくべきである。

3) ライフサイクルコストの縮減

雪対策施設におけるライフサイクルコストの考え方の導入

消融雪施設に代表されるような雪対策施設は、初期投資額に比較して、維持管理にかかるコスト割合が高い状況にあることから、ライフサイクルコストの考え方を導入して、適切な施設の計画・設計を行い、総合的なコスト縮減に取り組むべきである。

アウトカム指標 (out come)

真に国民の立場に立った行政運営のためには、「資源をいくら投入したか (=インプット)」や「何をしたか、何ほどの程度できたか (=アウトプット)」だけではなく、「国民の何がどのように改善されるか」という「アウトカム (成果)」を明らかにすることが重要である。政策評価の実施にあたっては、それぞれの政策が目指すアウトカム目標を明示するとともに、その業績を測定するためのアウトカム指標を設定することとしている。

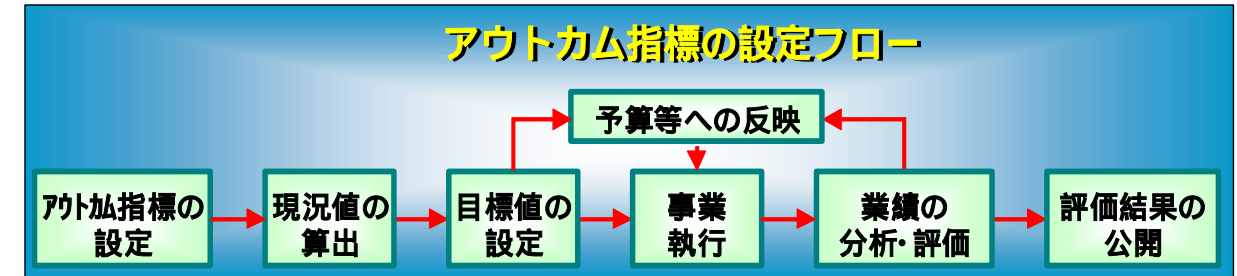
ライフサイクルコスト (life cycle cost)

ライフサイクル (life cycle) とは、一生涯の意味。道路においては、計画・設計・施工・管理・廃棄処分の各段階ごとに費用がかかるが、そのライフサイクル中に発生する費用 (コスト) の総称のこと。

1) 評価システムによる事業執行

アウトカム指標による評価システムの導入

・アウトカム指標により政策目標を設定
・毎年度、業績の分析と評価を行い、その結果を公表



資料：H14年国土交通省

2) サービスレベルの明確化

地域特性を踏まえた冬期道路管理水準の明確化

冬期路面管理水準と路面水準



滑りにくい

滑りやすい

資料：平成12年札幌市雪対策基本計画

3) ライフサイクルコストの縮減

雪対策施設におけるライフサイクルコストの考え方の導入

消融雪施設におけるライフサイクルコストイメージ

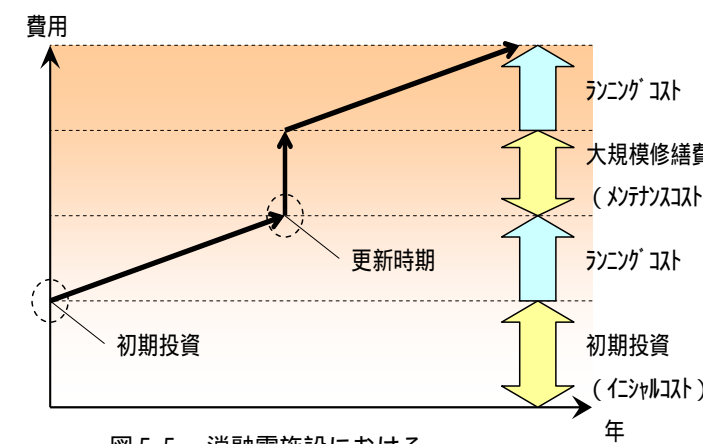


図55 消融雪施設におけるライフサイクルコストのイメージ

資料：国土交通省

設備後10年以上経過した整備済み延長

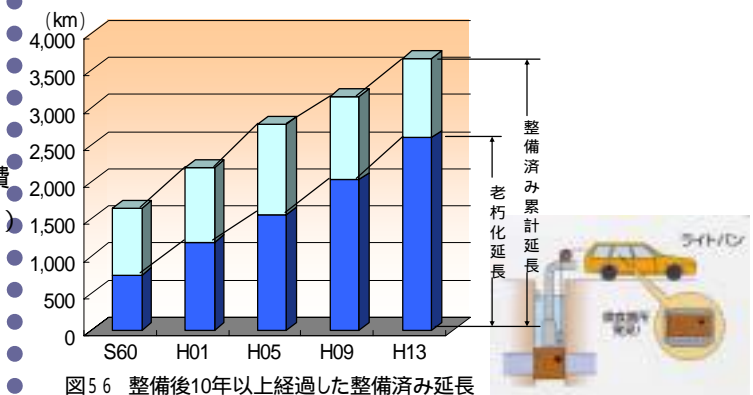


図56 整備後10年以上経過した整備済み延長

資料：国土交通省資料
注：整備後10年以上経過した整備済み延長を老朽化延長とした

消雪井戸内を容易で迅速な点検が可能となる修繕ロボットを活用し、ライフサイクルコストの低減を図ることが可能

4) 開かれた行政運営

雪対策に関するアカウンタビリティの徹底

雪寒事業は雪国で生活する住民にとっては、もっとも身近で関心の高い公共事業の一つであることから、事業の実施に当たっては、一層の説明責任の向上を図るとともに、パブリック・インボルブメント やパブリックコメント 等の導入を図るべきである。

5) 地域住民との関係の構築

NPO、地域住民等との適切な役割分担に基づくパートナーシップの構築の促進

雪国の地域づくりの主役はあくまで「自己責任のもとに自己決定を下していく自立した住民」であり、今後の雪国の道づくり、道づかいを円滑に進めていくためには、地域住民、行政、地域コミュニティー、NPO など官民共同の精神に基づく連携強化やネットワークづくりの取り組みを進めるべきである。

行政と地域住民とのパートナーシップでつくる協働型の雪処理活動を推進するためには、両者の連携を支えるコーディネータとしてNPO等の育成を支援すべきである。

次世代に向けた雪に関する教育活動への支援

雪国の美しい自然、文化・伝統を次世代に引き継いでいくとともに、ボランティア活動などへの積極的な参加を図るためには、雪国の知識・知恵や公共意識を涵養していくための総合学習等との連携や支援を進めるべきである。

アカウンタビリティ (accountability)

公共事業実施者の説明責任のこと。公共事業の説明責任とは、「政策、施策等を説明する責任」という意味に加え、「政策、施策等を説明できる方法で実施する責任」という意味を含み、政策、施策等の内容の説明、実施過程の説明、実績の評価等を国民に対して実施する責任があり、さらに、その説明を「わかりやすく」行う責任があることをいう。

パブリック・インボルブメント (public involvement)

公共事業等を進める上で、計画策定や意思決定の段階から、住民の参加を求め、住民など広く関係者の意見をできるかぎり反映させる方式のこと。

パブリックコメント (public comment)

制度や施策を決定する前の段階で案を公表して、国民からの意見や情報を募集し、寄せられた意見・情報に対する考え方を明らかにした上で意思決定を行う手続きのこと。

Column

～雪に関する教育活動～
「雪の科学館 (石川県 加賀市)」



展示室



雪氷実験教室

美しく楽しい「雪の結晶」ゾーン

4) 開かれた行政運営

雪対策に関するアカウンタビリティの徹底

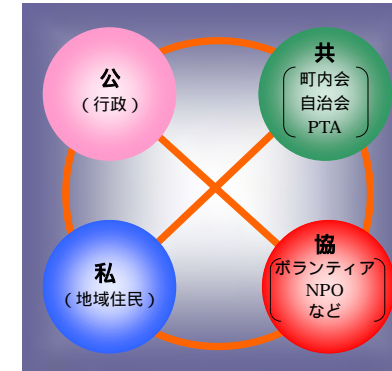


道・地域づくりを計画の初期段階から情報提供や意見聴取を実施し、より多くの住民との対話を行う「対話型の道・地域づくり」を積極的に実施。

5) 地域住民との関係の構築

NPO、地域住民等との適切な役割分担に基づくパートナーシップの構築と促進

活動状況事例【石川県津幡町井上地区振興会】



雪国では、「公・私・共・協」が、各々対等の立場で、雪対策に向けた共通の活動目標をもち、協働型ネットワークをつくることで、新しい地域住民との関係を構築する。



平成13年1月の大雪により児童達が苦勞して登下校している状況がきっかけ。地域振興会、津幡町、国が連携し、通学路の歩道除雪を実施。

図57 『これからの雪対策』

資料:雪国の視座

資料:国土交通省

次世代に向けた雪に関する教育活動への支援



図58 雁木について学ぶ地域の小学生

総合学習『雁木のひみつ発見』

上越市大町小学校6年生は、地元のシンボルである雁木が強い日差しや雨や雪などから守ってくれていることを総合学習を通して学習。



資料:がっこうだいすき(新潟日報社)